

診断学序論

⑥ 1 担当教員名

教授	伊藤俊之	(医学・看護学教育センター)	非常勤講師	
教授	向所賢一	(医学・看護学教育センター)	後藤道子	(三重大学大学院研医学究科 生命医科学専攻 臨床医学系講座 家庭医療学分野)
教授	杉本俊郎	(総合内科学講座)		
講師	藤田征弘	(内科学講座(糖尿病内分泌内科))	西山順滋	(関西医科大学 心療内科学講座)
特任助教	宮澤伊都子	(医学・看護学教育センター)	畔田明子	(大津ファミリークリニック)

2 配当学年等

第3学年 後期

① 3 学修目標

質の高い医療は的確な診断がなされてこそ成り立ちます。
ここではまず、診断を行うにあたっての基礎的能力を養うことを目標とします。

【医療面接】

- ①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。
- ②医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。
- ③病歴(主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー)を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。
- ④診察時に患者に適切な体位(立位、座位、半座位、臥位、碎石位)を説明できる。
- ⑤診察で得た所見、診断、必要な検査を上級医に説明、報告できる。

【全身状態とバイタルサイン】

- ①身長・体重を測定し、body mass index <BMI>の算出、栄養状態を評価できる。
- ②上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。
- ③両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。
- ④呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。
- ⑤腋窩で体温を測定できる。
- ⑥下肢の動脈の触診等、下腿の血圧測定(触診法)、大腿の血圧測定(聴診法)を実施できる。
- ⑦全身の外観(体型、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声)を評価できる。

【問題志向型システムと臨床診断推論】

- ①基本的診察知識に基づき、症例に関する情報を収集・分析できる。
- ②得られた情報を基に、その症例の問題点を抽出できる。
- ③病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。
- ④主要疾患の症例に関して、診断・治療計画を立案できる。

【根拠に基づいた医療<EBM>】

- ①根拠に基づいた医療<EBM>の5つのステップを列挙できる。
- ②現場で遭遇した臨床上の問題に関し、PICO(PECO)を用いた問題の定式化ができる。
- ③研究デザイン(観察研究(記述研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究)、介入研究(臨床研究、ランダム化比較試験)、システムティックレビュー、メタ分析(メタアナリシス)を概説できる。
- ④データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができる。
- ⑤得られた情報の批判的吟味ができる。
- ⑥診療ガイドラインの種類と使用上の注意を列挙できる。
- ⑦診療ガイドラインの推奨の強さについて違いを述べることができる。

【診療情報と諸証明書】

- ①診療録(カルテ)に関する基本的な知識(診療録の管理と保存(電子カルテを含む)、診療録の内容、診療情報の開示、プライバシー保護、セキュリティ、問題志向型医療記録<POMR>、主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective, objective, assessment, plan <SOAP>))を説明でき、実際に作成できる。

【診療録（カルテ）】

- ①適切に患者の情報を収集し、問題志向型医療記録<POMR>を作成できる。
- ②診療経過を主観的所見・客観的所見・評価・計画<SOAP>で記載できる。
- ③症例を適切に要約する習慣を身に付け、状況に応じて提示できる。
- ④プライバシー保護とセキュリティーに充分配慮できる。

講義はこの順番に従って行いませんが、全体で「医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）」の到達目標を達成できるように講義や演習等を行います。

② 4 授 業 概 要

- ・診断学の基礎、患者さんへのアプローチ法、医療面接の基本、基本的身体所見の取り方や診療録（カルテ）の記載法等について学修します。
- ・各回の講義に対して30分の予習と60分の復習を日常的に行ってください。試験期間や場合によっては休日等も有効に活用して、さらに1回の講義あたり90分の復習によって理解を深めることが望まれます。

③ 5 授 業 内 容

④

病歴の聴取、身体診察、診断のプロセス、EBMに基づく診断の考え方とEBMの実践、診療録の書き方や医療面接法について講義し、一部演習やロールプレイを行います。

《注意》

令和5年度から共用試験が医師法に位置づけられることとなり、令和4年度は全国的に新たな共用試験のトライアルが実施される予定です。2022年1月時点においてその概要が明らかにされていないため、第10～11回の授業内容が変更される可能性があります。

回	年月日（曜日）	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和4年10月6日（木）	4	宮 澤	講義	診断の流れと病歴聴取	臨1・臨2
第2回	令和4年10月6日（木）	5	〃	講義、実習	身体所見 血圧計、聴診などの実習を含む	臨1・臨2
第3回	令和4年10月27日（木）	4	西 山	Group work	医療面接(1)	臨1・臨2
第4回	令和4年10月27日（木）	5	〃	Group work	医療面接(2)	臨1・臨2
第5回	令和4年11月8日（火）	5	杉 本	Group work	EBMと統計的手法	臨1・臨2
第6回	令和4年11月15日（火）	5	藤 田	講義	カルテの書き方	臨1・臨2
第7回	令和4年11月24日（木）	4	畔 田	Group work	診断の実際(1)	臨1・臨2
第8回	令和4年11月24日（木）	5	〃	Group work	診断の実際(2)	臨1・臨2
第9回	令和4年11月30日（水）	5	後 藤	Group work	コミュニケーションスキル・医療面接実習	臨3
第10回	令和4年12月3日（土）			OSCE模擬患者役	OSCE模擬患者役	
第11回	令和4年12月4日（日）			OSCE模擬患者役	OSCE模擬患者役	

6 授 業 形 式 ・ 視 聴 覚 機 器 の 活 用

講義を主とし、時に演習やロールプレイを含めた実習を行う。

⑦ 7 評 価 方 法

- ・講義や演習毎に、Webclass等を用いて課題（小テストやレポート等）を提出して頂きます。
- ・70%以上の課題提出をもって評価の対象とします。
- ・第10～11回（2022年12月3～4日）でのレポート提出を必須とします。なお、レポート提出日時（別示）に遅れた場合、理由の如何を問わず受理しません。

8 テ キ ス ト

特に指定なし。

9 参 考 文 献

電子カルテ時代のPOS—患者指向の連携医療を推進するために、医学書院
「型」が身につくカルテの書き方、医学書院
はじめての医療面接—コミュニケーション技法とその学び方、医学書院
メディカルインタビュー 第2版、MEDSi
よくわかる医療面接と模擬患者、名古屋大学出版会
ベイツ診察法 第2版、MEDSi
ベイツ診察法ポケットガイド 第3版、MEDSi
サパイラ 身体診察のアートとサイエンス 原書第4版、医学書院
マクギーの身体診断学、診断と治療社
内科診断学、医学書院
内科診断学、南江堂
ジェネラリストのための内科診断リファレンス：エビデンスに基づく究極の診断学をめざして、医学書院

10 オフィスアワー（授業相談）

主担当教員までeメールで連絡してください。

11 学生へのメッセージ

- ・総合的な診断能力の基本が身につくよう頑張ろう。
- ・OSCEの模擬患者役では、患者役を体験することで患者さんの置かれている状況や気持ちを理解すると共に、将来自分がOSCEを受験する際の参考としてください。

12 授業用E-mail

hqrinkyo@belle.shiga-med.ac.jp

13 主担当教員の実務経験

医師